

武石地域協議会 会議概要

- 1 審議会名 武石地域協議会
- 2 日 時 平成 23 年 7 月 27 日 午後 7 時 00 分から午後 9 時 00 分まで
- 3 会 場 武石地域自治センター 第 1 会議室
- 4 出席者 新井繁雄委員、上野正司委員、大沢春樹委員、北沢賢二委員、清住章雄委員、清住洋子委員、越 博徳委員、小宮山昌武委員、小山洋江委員、滝沢由美子委員、竹内利通委員、中嶋和夫委員、橋詰真由美委員、松代典之委員、森美由紀委員、柳沢裕子委員（欠席 4 名）柿畷祐子委員、下村孝明委員、樋澤たえ子委員、松井幸夫委員、
- 5 市側出席者 伊藤地域自治センター長、木藤地域振興課長、山口市民生活課長、近藤健康福祉課長、牛山産業観光課長兼建設課長、掛川武石教育事務所長、児玉地域振興課長補佐
- 6 公開・非公開等の別 公開
- 7 傍聴者 0 人 記者 0 人
- 8 会議概要作成年月日 23 年 8 月 2 日 作成部局課名 武石地域自治センター 地域振興課

協 議 事 項 等

- 1 開会（滝沢副会長）
- 2 会長あいさつ（清住会長）
①内外の状況 ②雲溪荘の協議の経過 ③本日の協議事項
- 3 センター長あいさつ（伊藤センター長）
①塩田の保育園事故の概要と市の対策について ②本日の協議事項
- 4 協議事項

「雲溪荘の今後について」

中小企業診断士 滝澤 恵一先生

【概要】

- ① 経歴
- ② これまでの実績
- ③ 雲溪荘の経営改善の実践
- ④ 地域の人材、資源の活用による雲溪荘再生の可能性
- ⑤ 雲溪荘の今後

【主な質疑】

（会長）雲溪荘の経営改善の内容と改善見通しについてお話しいただいたが、質問を受けたい。

（委員）改修個所として客室トイレ、エレベーターの話があったが、露天風呂はどうか。

（コンサルタント）知り合いの設計士に問い合わせたが、場所的に難しいとのことであった。他では、川の上で作ったらいいという声もあった。露天風呂があったらいいと思う。

（委員）これまで長年の経営の中で 1 年しか黒字になっていない雲溪荘に武石の公社事業の将来を託していいのか。

（コンサルタント）雲溪荘の従業員は変わりつつある。従業員の潜在能力を發揮できるような経営にしていってほしい。公社の職員は能力を發揮するに至っていない。練馬区におんぶにだっこであったことを脱していかなければいけない。

（委員）景気低迷により、各地の有名温泉地の温泉旅館が倒産している状況の中で、再生が成るのか。

(コンサルタント) 雲溪荘を、従来の旅館業、観光業で定義するのではなく、地域資源や人材をつないだ事業を展開し、その中の一つとして宿泊業があるという経営をしたらどうかと思う。農業者、民間会社、観光業者が一緒になって魅力ある場所を作っていくべきと思う。

(委員) 雲溪荘は旅館業でなく、農産物加工施設や特産品販売など地域産業を含めた活動の一つに宿泊を位置づけて、経営改善を図っていくということか。

(コンサルタント) 雲溪荘が拠点となって、宿泊、農産物、加工品を販売する機能を持っていく。雲溪荘だけを考えるのではなく、地域の加工業者、卸業者、販売業者が連携して、それを市ががっちりサポートしてやっていく仕組みを作っていけばいいと思う。

(委員) 雲溪荘は、市の農業団体から地産地消の店として登録されているが、宣伝されていない。このようなことも宣伝していかなければいけない。

(委員) 公社は利潤を追求してはいけないとされているが、利潤を追求しなければもうけは出ない、その矛盾をどうすればいいか。

(コンサルタント) 法律では、利益を出してはいけないのではなく利益を分配してはいけないとなっている。定款に定められている事業を行って、しっかり利益を出して赤字にならないで黒字になる経営をしてほしいとお願いしている。先に例とした「あすかの杜」は、1年赤字を出ただけで黒字経営をしている。行政が51パーセント出資して株式会社で運営し、行政は金を出すが口を出さずに民間が経営している。儲けることが目的でなく、儲かる商品を作らないと、その施設の存続のために税金を投入していくということになってしまう。

(委員) 前回、前々回と雲溪荘の経営状況の数字の話聞いてきたので、今回、このような経営改善の話聞いても目が覚めない。私は先行きが暗いと思う。

(委員) 確認したいが、雲溪荘は今の形ではだめで、施設を改修しなければだめということか。

(コンサルタント) すぐ行政に予算化してもらって改修しなくても、中の働き手の機能を変えればいい。今の建物の中で、今のスタッフ、あるいは公社の中で何人かの人に異動してもらって、新しい商品を売りに出る、あるいは世の中の人に知ってもらう。ということだと思う。

(委員) そのあとからは、改修も営業も考えて予算のねん出ということも考えなければいけないということか。

(コンサルタント) それはやはり行政が考えていくことだと思う。

(委員) 雲溪荘を残したいという思いをもって検討して、それでだめだったら違う方向に行けばいい。先生の意見を受け止めて我々も検討していかなければいけない。

(委員) 先生がコンサルタントとして指導に入っている間は未来が開けていたと思うが、その後は前と同じ経営だと思う。人心を一新していかなければいけないということか。

(コンサルタント) 一新はしなくてもいいと思う。雲溪荘はそんなに悪い評判ではなくなっている。

(委員) 営業面も含めて受け身だけではいけないから、攻めでいかねばならないということか。

(コンサルタント) そのとおり。攻めでなくてはいけない。

(会長) 今日は先生には無報酬で来ていただき、熱弁をふるっていただいた。また機会があったらこのような機会を持ちたい。先生には感謝します。

5 その他

(1) 夏祭りについて

期間 8月12日～15日 内容 別紙資料のとおり

(2) 次回日程

協議の末 8月24日(水)と決定する。

6 閉会（滝沢副会長）